



さざなみ

整形外科のご紹介

整形外科 部長 長瀬 寅

同愛記念病院整形外科についてご紹介いたします。

同愛記念病院整形外科は、1969年に開設以来まもなく50周年を迎えようとしています。現在の土屋正光名誉院長が1978年に赴任されてから、当科は整形外科の中でも関節疾患専門病院としての特色を打ち出すようになりました。1983年に整形外科病棟として9階病棟が開設されましたが、多くの大相撲力士の外傷に対しても入院加療が行われるようになりました。また、1991年からは土屋名誉院長が日本ハムファイターズのチームドクターとして活躍されるようになりました。

以上のような相撲や野球を中心としたスポーツ医学の治療はもちろんのこと、同愛記念病院の「地域の中核の急性期病院」としての性格からも近年の高齢者の外傷や変性疾患に対しての治療も積極的に行っています。



現在は中川照彦副院長をはじめとして、常勤医師10名(整形外科専門医8名)の体制であらゆる整形外科疾患に対応し、当科では対応が困難な症例については専門病院にご紹介しております。関節疾患としては上肢班・股関節班・膝足班の3グループで、それぞれ特色のある治療を行っております。高齢者の大腿骨頸部骨折や橈骨遠位端骨折をはじめとした外傷については、可能な限り手術加療にて対応させていただいております。変形性膝関節症や変形性股関節症といった変性疾患についても、2009年より人工関節センターを開設して、人工関節置換術を安全に行うことによって多くの患者様およびそのご家族にご評価いただいております(昨年実績では人工股関節124例、人工膝関節108例)。

また、スポーツ傷害については2008年より関節鏡・スポーツセンターを開設し、スポーツ選手が可能な限り早期復帰できるように、低侵襲手術としての関節鏡手術を積極的に行っております(昨年実績で肩腱板修復術84例、膝前十字靭帯再建術68例)。さらに最近のトピックスとしては、壮年期の膝関節疾患に対しての膝関節周囲骨切り術を多数行い、多くの患者様に満足していただいております(昨年実績45例)。

それぞれの手術症例については、水曜日夜に整形外科医全員で術前術後カンファレンスを行い、内科合併症や手術適応などに

ついて検討しております。また、木曜日夜には病棟カンファレンスを行い、入院患者様の治療状況について検討しております。

外来診察は午前9時から12時までの受付で、**月曜日から土曜日まで(土曜日の受付は午前11時まで)**行っていますが、予約患者様については午後にも診察しております。なお、患者様のご紹介については、**地域医療連携室(03-5608-3237(直通))**を介して行っていただければ幸いです。

同愛記念病院整形外科は、今後も地域の整形外科医療に貢献するとともに、今まで行ってきたスポーツ整形外科医療についても積極的に継続していきたいと考えておりますので、これからも是非たくさんのお客様のご紹介をよろしくお願いいたします。





薬剤科業務紹介

薬剤科長 小山憲一

病院の薬剤師はどんな仕事をしているの？ と思っている方がたくさんいらっしゃると思いますので、簡単にご紹介します。主な業務に、**調剤業務**、**注射調剤業務**、**病棟業務**、**医薬品情報管理業務**があります。

調剤業務は、入院している患者さんの内服薬や外用薬を作っています。薬の量は正しいか、飲み方は正しいか、飲み合わせはどうかを確認して、必要に応じて医師に問い合わせをしています。また、検査や手術で入院する患者さんは、飲んではいけない薬（手術前中止薬）があるため、入院前に服用している薬を確認しています。

注射調剤業務は、医師が入力した注射処方箋に基づいて、入院している患者さん1人1人に注射薬をセットしています。ただセットするだけでなく、薬の投与量・投与速度・投与経路・何種類かの注射薬を混ぜた時の安定性確認しながら行っています。また、抗がん剤注射調剤・調製業務も行っています。抗がん剤の投与が適切で安全に行われるように、複数の薬剤師が用法・用量・投与間隔などを細かく確認し、抗がん剤を投与する直前に注射薬を混合し、患者さんのもとへ提供しています。

病棟業務は、病棟に常駐している薬剤師が医師や看護師と協力し、チーム医療の一員として入院患者さんの薬物療法の手助けをしています。患者さんが、入院の際に持参した薬の情報（用法・用量・服薬状況・副作用・アレルギーの有無など）を確認し、医師や看護師に情報提供しています。入院中は、患者さんのベッドサイドで薬の正しい服用方法・効能効果・副作用などを説明し、より安全に効果的な薬物療法が行えるようサポートしています。また、抗生剤の投与計画を行い、その結果に基づき最適な薬の投与量、投与速度の

設定を医師へ提案しています。そして、退院の際には薬がきちんと内服できるように説明を行っています。

医薬品情報管理業務は、医薬品が有効かつ安全に、そして適正に治療に用いられるように必要な情報を収集して、医師や看護師などに日々情報を提供しています。特に、副作用情報は、できるだけ早く医師へ伝達できるように情報収集活動を行っています。

他にも、製剤業務、医薬品管理業務、治験事務局などがあり、感染制御チーム、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームの一員としても幅広く活動しています。

医療を取り巻くさまざまな環境の変化に伴い、病院の薬剤師の仕事も一昔前より患者さんと接する機会が増えています。顔の見えない薬剤師から、顔の見える薬剤師になってきました。この文章を読んだ方の中には、同愛の薬剤師の顔を思い出す方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ あくまで、希望的観測ですが…。

薬剤科は、これからも患者さんのためになるような、たくさん仕事を行っていきたくと思います。



◀ 抗がん剤を調製している様子



▶ 患者さんへ服薬指導の様子

同愛記念病院の理念 同愛記念病院は地域の要請をふまえ地区の基幹病院として親切で適切な医療を提供し社会に貢献します。

〈診療科目のご案内〉

循環器内科、血液内科、糖尿病・代謝内科、腎臓内科、消化器内科、神経内科、一般内科、神経科・精神科、アレルギー・呼吸器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

〈病床数〉 403床

■交通案内

JR 総武線 両国駅(西口)から徒歩7分
都営地下鉄浅草線 蔵前駅から徒歩10分
都営地下鉄大江戸線 両国駅から徒歩5分
●都営バス (錦糸町～大塚駅) 石原1丁目停留所から徒歩3分

当院では外来予約制です。

初診 / (月～金) 午前8時30分～正午(紹介状のある方は午後3時)
(土) 午前8時30分～午前11時
再診 / ご予約のない方: 自動再来受付機にて午前8時30分～正午
次回のご予約は診察後にお申し込みください。
休診日 / 日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



社会福祉法人 同愛記念病院財団
同愛記念病院

〒130-8587 東京都墨田区横網2丁目1番11号
TEL. 03-3625-6381(代) FAX. 03-5608-3211